

北海道分科会の バリアフリーの取組について

【背景】

- 一般社団法人北海道視覚障害者福祉連合会（以下、連合会）がJR白老駅からウポポイまでの誘導環境を調査した「民族共生象徴空間 ウポポイの視覚障害者誘導環境調査報告書」において、白老駅のホームから駅出入口までの点字表記等の見直しの提案あり。
- 提案の内容は以下のとおり
 - ・テキストなどによる詳細なアクセス情報の提供や、現在の点字による案内の表現の工夫が必要（具体的な提案内容）連絡通路を進んで行くと2か所エレベーターを利用する場があるが、操作パネルの押しボタンの点字表記が統一されていないなどの関係で、現在自分がいる階の把握に戸惑う可能性が大きい。よってこのエレベーターの案内表記について検討が必要。

○ 提案に対する状況確認

日 時：令和3年11月16日 10時～10時30分
 参加者：（一社）北海道視覚障害者福祉連合会、北海道運輸局

○ 現地での検証

日 時：令和3年12月13日（月）14時30分～16時
 場 所：J R 白老駅
 参加者：（一社）北海道視覚障害者福祉連合会、移動等円滑化評価会議北海道分科会 鈴木会長、白老町、J R 北海道、北海道運輸局

○ 検証後の改善結果

タッチ内エレベーター及びかご内操作盤の改札・連絡通路の横に「1階・2階」を併記（例 1階改札）すると自分の位置が把握できるようになることを提案し3月14日に改善された。



日時

令和4年2月18日(金)

12:45 ~ 15:00 ウポポイ視察(エントランス棟総合案内所、体験交流ホール、国立アイヌ民族博物館)

15:00 ~ 16:05 意見交換会



参加者

■視察者:北星学園大学経済学部経営情報学科 鈴木教授
 (一社)北海道視覚障害者福祉連合会 島会長、柴田氏
 (公社)北海道ろうあ連盟 金原常務理事
 (一社)室蘭身体障害者福祉協会 政田会長
 (NPO法人)キウシト湿原・登別 三澤理事長

■随行者:[北海運輸局]
 バリアフリー推進課 朝野課長、米沢専門官
 [北海道開発局]
 開発調整課 林課長補佐
 都市住宅課 西山都市事業管理官
 アイヌ施策推進課 茂木アイヌ施策推進企画官外
 [アイヌ民族文化財団]
 企画広報部 五百木部長
 [国立アイヌ民族博物館]
 南 副館長



総合案内所のタブレット端末で手話通訳者と会話を行っている



体験交流ホールにて、舞踊上演前に手話通訳者とともに説明



探求展示テンパテンパにて



第1回交流室展示「ケレヤン、ヌカラヤン、ヌヤン さわる、みる、きく」

意見交換会における主な発言(抜粋)

- ・アイヌ文化は神羅万象すべての万物と共生してきた歴史があり、まさにユニバーサルデザイン=共生社会の実現につながる考えである。外国の方々含め誰もがウポポイに来て、楽しめるような施設づくりを一緒に考えていきたい。
- ・スマホのアプリ「ナビレンズ」と「タグ」があれば、視覚障害者に情報提供できる。博物館での導入を検討していただきたい。
- ・総合案内所の多言語、手話通訳対応のタブレットを利用しやすい工夫を。舞踊の際にスクリーンに手話通訳や字幕があれば良かった。
- ・タブレットがあれば、音声情報や活字から情報を得られる。
- ・園内のアクセス(誘導マット等)が不足しているのが残念。若者が利用するインスタを含めて色々なツールを使って情報発信を。
- ・誘導マットや、お金をかけなくても利用できる技術の導入を検討願う。アイヌ語も口承ということで、文字以外に五感を使った展示や伝える工夫をすれば、世界で唯一無二の施設になるだろう。